

実習実施者各位（BCC 配信）

お世話になっております。

ISM 事業協同組合からのお知らせです。

技能実習生、特定活動への移行者、特定技能就労者、エンジニアなど、
現在就労中のベトナム人の中で、帰国希望者がいると思いますが、
ベトナム LCC 大手のベトジェットエアとベトナム航空局の運航再開計画に関する現地情報誌の記事を紹介します。

下記記事のように、航空券はウェブサイト、フェイスブック、アプリなどで、帰国希望のベトナム人が

自分で手配し、「チケットが取れた」と言って明日成田に移動するという話も起こりえます。

（現にありました）

急に言われてもという話ですが、帰りたい一心のベトナム人にとっては、チケットが取れば帰りますので

毎日の声掛けと手配状況の確認をしていただければ、直前になっての退職手続きのバタバタは回避できる

と思います。ご注意ください。よろしくお願いいたします。

特に一旦フライト日が確定したかのように言われても、幾日かフライト日がずれることもありますので

要注意です。記事中の第 2 期の計画に入ると帰国者が増えることも予想されます。

ベトナムの現地情報ネット誌 VIETJO（ベトジョー）からの引用

格安航空会社(LCC)最大手ベトジェットエア[VJC](Vietjet Air)は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で運休している

国際線について、ベトナム発、日本・台湾・韓国・タイ行き of 4 路線の運航を 4 月から順次再開する。

航空券はウェブサイトまたはフェイスブック(Facebook)ページ、アプリ「Vietjet Air」、チケットオフィス、正規代理店で販売する。

ベトジェットエアによると、現在のところベトナム発の国際線は海外での就学・就業、海外在住の親族訪問、ベトナムから母国への

帰国を目的とした乗客を対象としている。乗客は、各国の規定に従って書類を準備し、手続きを行う必要がある。

このほか、ベトジェットエアは海外発ベトナム行きの帰国便も、ベトナム政府の各種規定を遵守し、航空局や外務省により割り当てられた計画に従って運航していく方針。

交通運輸省傘下のベトナム航空局(CAAV)は、国際線定期便の運航再開計画を同省に提案した。計画は 3 期に分かれている。

○ 第1期では、ベトナム国民向けに「パッケージフライト」を運航する。パッケージフライトはベトナムの航空会社と旅行会社

が管轄機関から承認を得た上で、外交機関と地方自治体と協力し、運航や入国者の受け入れを手配する形で行う。

パッケージフライトには航空券の運賃や新型コロナウイルス検査、ホテルでの隔離(15日間)、食事などにかかる費用が含まれる。

対象の国際線は航空会社が提案することとし、運航頻度は地方自治体の隔離施設の入国者受け入れ能力に合わせて調整する。

○ 第2期ではパッケージフライトに加え、7月からベトナム国民と外国人向けに国際線定期便を運航する。まずはベトナム～日本間、

ベトナム～韓国間、ベトナム～台湾間の3路線を運航する。これにより、同3か国から週に計24便、6000～7000人の入国者を

受け入れる見通し。乗客は航空会社または指定されたパートナー企業に、航空券の運賃や新型コロナウイルス検査、ホテルでの隔離、

食事などを含めたサービス料金を支払うこととなる。

○ 第3期ではさらに、「ワクチン接種証明書(ワクチンパスポート)」の導入とベトナム国内の新型コロナウイルスワクチンの大量接種を

想定し、9月からベトナムと一部の国々を結ぶ定期便を通常運航する。ワクチンパスポートを所持する入国者には、隔離を不要とする見通し。

これに関連し、ワクチン接種を受けた人々の入国受け入れ再開に向けて、保健省は既に情報通信省と主要通信事業者と協力し、

ワクチンパスポートに関連する技術的なソリューションシステムの構築を進めている。システムは4月上旬の完成を目指している。

なお、[ベトナム航空](#)[HVN](Vietnam Airlines)は、国際航空運送協会(IATA)が運用の準備を進めているデジタル健康パスポート

「IATA トラベルパス(IATA Travel Pass)」の導入計画を明らかにした。